

大統領の罷免が決定したブラジル ～混乱は徐々に收拾の方向へ～

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

ブラジルでは8月31日、国家会計の不正操作を理由として、ルセフ大統領の罷免が議会上院での弾劾裁判で決定しました。これを受け、今年5月以降、職務停止となっていた同氏に代わり大統領職を代行してきたテメル副大統領が大統領に就任し、ルセフ氏の本来の大統領任期である2018年末まで務めることになります。

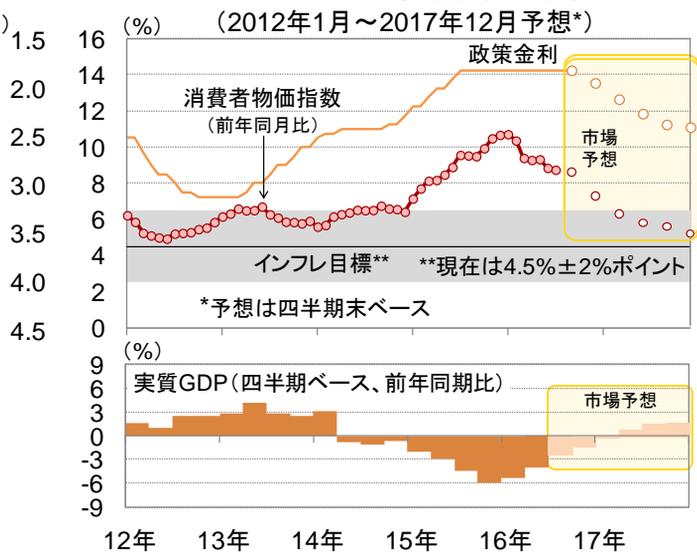
テメル氏は、大統領代行に就任して以降、所属する民主運動党(PMDB)を中心とした連立暫定政権を率い、国内に広がった混乱の收拾を目指してきました。特に、かつて中央銀行総裁として高成長と物価安定を成し遂げた実績を持ち、複数の政党に影響があるとされるメイレス氏を財務相に据えた上で、歳出の抑制や税金・年金の改革などを通じた財政赤字の削減、市場での信任の回復に意欲を示してきました。こうした姿勢が投資家から評価されているほか、年初以降、資源価格が持ち直していること、さらに、経済成長率はマイナス続きながら、景気の最悪期は過ぎたとの見方などもあり、ブラジルの通貨や株式は足元で持ち直し傾向にあります。ただし、ルセフ氏の罷免により、暫定政権は正式な政権となるものの、前政権と同様に多党の寄り合い所帯であるだけでなく、国民からの支持率が低いこと、さらには、国営石油会社に絡む汚職事件の捜査が続いている影響などもあり、歳出抑制や年金などの改革に向けての法案が審議の停滞や内容面での妥協を余儀なくされる恐れがある点には注意が必要です。こうした懸念は従来から指摘されているものの、政治の機能不全などにより改革の先行きが不透明となるような場合には、投資家の失望につながることも考えられます。

景気後退と物価高という厳しい国内経済環境については、徐々に改善に向かうと見込まれています。また、持ち直しの兆しを見せる資源価格が、今後、予想されている新興国景気の回復・加速などに伴ない、堅調な推移となれば、資源大国のブラジルにとってプラスに働くと考えられます。政治・経済の両面において、状況の急改善こそ見込み難いものの、政治面での混乱・機能不全が回避されるとともに、景気が引き続き持ち直しに向かうようであれば、同国に対する投資家の関心は高まっていくと期待されます。

ブラジル・リアルと商品市況の推移



ブラジルの主要指標の推移



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。